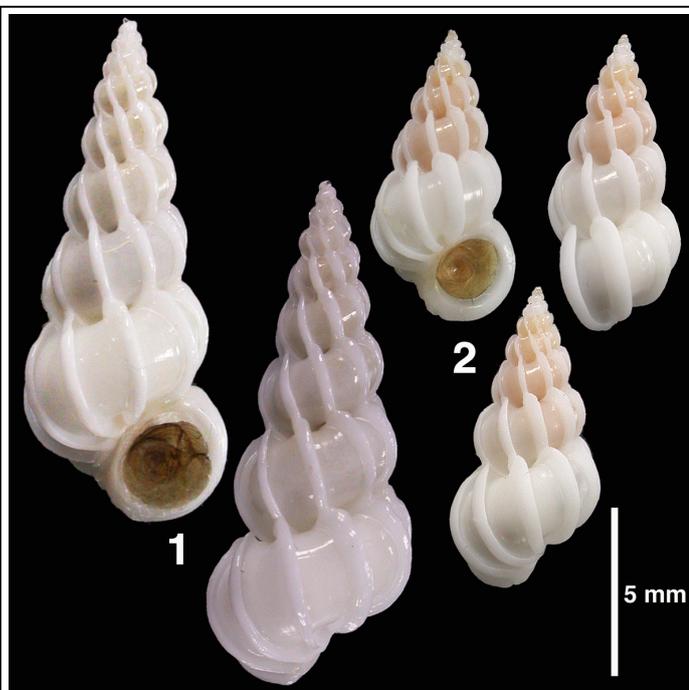


シノブガイ *Epitonium gracile* (Sowerby II)

【選定理由】

本種は内湾奥の潮下帯砂泥底にすむ。県内では内湾域の潮下帯の環境は上部の干潟の破壊や浚渫、貧酸素水塊の発生、水質汚濁などで急速に悪化していて、この生息帯の貝類相が著しく単純化している。本種は三河湾奥（蒲郡市沖）、三河湾口部などで生貝が採集されているが、個体数は少ない（木村，1996；木村，2000）。その後の調査で、知多半島伊勢湾側をドレッジにより調査したが、生息する面積は小さく、生貝の個体数は少なかった。また、佐久島（早瀬・木村，2020）でも生貝が採集されたが、個体数は非常に少ない。将来的に絶滅危惧に移行する危険性がある種と評価された。



1: 蒲郡市三河大島沖(ドレッジ水深 2-10 m), 2002 年 5 月 23 日,
2: 南知多町内海沖(ドレッジ水深 2-5 m), 2000 年 7 月 28 日,
木村昭一採集

【形態】

殻長約 10 mm の高い塔型で、殻は白色で殻質は厚い。殻表には強い縦肋があり光沢がある。蓋は革質で淡黄褐色。

【分布の概要】

【県内の分布】

上述したように生息地、個体数は非常に少ない。

【世界及び国内の分布】

日本、台湾。国内では房総半島以南から九州まで分布する。

【生息地の環境／生態的特性】

【選定理由】の項参照。

【現在の生息状況／減少の要因】

上述したように現在でも生貝が少数採集されているが、生息地、個体数とも明らかに減少している。

【保全上の留意点】

上述したように県内潮下帯の環境を保全する。本種はアマモ場周辺で生息が確認されているので、同様に保全することが必要であろう。

【特記事項】

本種の学名は *Epitonium (Nitidiscala) angustum* (Dunker, 1861) という見解がある（石川，2017）。

【引用文献】

- 早瀬善正・木村昭一，2020. 佐久島（三河湾）の潮間帯貝類相. ちりぼたん, 50 (1): 33-79.
石川 裕，2017. シノブガイの学名は *Epitonium (Nitidiscala) angustum* (Dunker, 1861) である. まいご, (24): 24-26.
木村昭一，1996. ドレッジによって採集された日間賀島南部海域の底生動物. 研究彙報(第 35 報): 3-19. 全国高等学校水産教育研究会.
木村昭一，2000. 伊勢湾・三河湾でドレッジによって採集された貝類(予報). かきつばた, (26): 18-20.

(木村昭一)